

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2775801398		
法人名	株式会社ユニマツトそよ風		
事業所名	ひらのケアセンターそよ風 (アルメリア)		
所在地	大阪府大阪市平野区長吉長原4-17-6		
自己評価作成日	平成25年6月30日	評価結果市町村受理日	平成25年8月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成25年7月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ご利用者一人ひとり、できる部分は維持を心がけ、出来ない部分にはさりげない援助で支援しています。また、個々の生活ペースを理解し、心穏やかに過ごしていただける空間作りを心掛けています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者にとって、食事が最大の楽しみであることを認識し、心のこもった食事を提供している。利用者も食事づくりに参加し、生活リハビリの効果ももたらしている。職員は利用者に明るく接している。職員と利用者の関係は家族的であり、利用者、家族からの信頼は厚い。利用者は毎日を穏やかに過ごしているように見受けられる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域交流も活発化しており、地域と共に発展していける事業所作りへの実践を積み重ねる努力を行っている。	そよ風グループの基本理念である「明るく元気ですこやかなヒューマンライフを支える」。の他に事業所独自で「地域とふれあい、共に発展」との理念を掲げ、全職員が気持ちを揃え、達成に向け日々励んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ふれあい喫茶や地域行事への参加など、地域とのつながりを通じて日常の活性化へとつなぐことができるよう支援している。	町会に加入し、お祭りや地蔵盆、ふれあい喫茶などの地域行事に参加し、また地域の防災勉強会に出席、地域包括主催の家族支援交流会でグループホームについての講演を行うなど、交流を深めている。	地域とのつながりが深まり、ようやく地域の一員として認められるようになってきている。今後、地域の人が気軽に事業所へ相談に来られるような、地域貢献も期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方との交流の場を増やし、グループホーム(認知症の方)への理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様にも参加していただき、地域の方との情報交換を行い、取り入れるべきことは積極的に取り入れ実践につなげる努力をしている。利用者様の様子は写真などを利用し解りやすいよう工夫している。	2カ月毎に会議を開き、福祉協議会長、地域活動協議会代表、民生委員長、地域包括支援センター職員、利用者、事業所関係者が参加し双方向的に話し合われ、運営に反映されている。家族の参加が途切れている。	事業所の努力があつて、運営推進会議が継続して開催されるようになって、成果もあがっている。ただ、利用者家族の参加が少なくなっているので改善が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時においては連携を取り、関係を築いている。	区役所担当部署には毎月訪問し、近況を報告し、役所からの通達や研修予定等を聞き、助言をもらうこともあり、連携を密にし協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	解除の方向に向けた話し合いは家族様を含め行っているが、本人の心身等の状況により解除とまでは至っていない。	職員は身体拘束の対象となる行為を、研修などで正しく理解している。一部の利用者について安全を優先し、夜はベットの柵をしている例があったが、それには家族の了解を得ている。ユニットの出入り口は施錠されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での研修や外部研修を通じて学習の機会を持ち、職員一人ひとりの認識を高める努力を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在活用されている利用者様もおられ、担当者との連携をとりながらサポートを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定の際は必ず電話、文書等で連絡を行い同意を頂いている。また都度に生じる疑問や質問に対しては柔軟に対応し理解を深めていただく努力を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡時などにおいて要望をお聞きする機会を設け、改善すべき点は改善し、家族ノートなどを活用しながら職員間での周知を図っている。	家族が面会や食事会などでの来訪時に相談や要望を聞き取るようにしている。聞き取ったことを家族ノートに書き取り、全員に回覧し、周知徹底を図り、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より各フロアの利用者や職員と関わる時間を作り、意見を言いやすい環境を作る努力を行っている。また企画などにおいては協力し、実践へと反映させている。	月1回全体会議を開催し、全員から意見や提案を聞き運営に反映させている。また随時フロア会議、リーダー会議を開き職員の意見、提案を集め改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に面談などを通して意見を聞く機会を設けている。またその意見を反映できるよう会社にも発信している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員に関してはトレーナー制度を活用している。また外部研修に参加を希望するスタッフも増え、研修の活用は浸透してきている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会ならびに研修等により他事業所との交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様、家族様との面談を通し、安心していただける雰囲気作りを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や面談の際などを利用し、家族様の思いやご要望等をお聞きし、不安な気持ちの解消と、家族様と一緒に支援していく体制作りを確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談記録の活用およびアセスメントによる必要な支援の見極めをし目標の設定、スタッフに対する情報の周知を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や洗濯など、日常でできることは声かけし、職員と一緒に行っていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡等により、情報の共有を行い、協力していただける体制作りに努めている。また行事などへの参加も募り、一緒に思い出を作る機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様の協力もあり、基本的には配慮として行っている支援であるが、必要な方に対してはケアプランの中で位置付け意識的な関わりを支援している。	知人が時々来訪される。また地域のふれあい喫茶などで新しい交友ができ、馴染みの関係継続に繋がっている。しかし利用者も友人も、共に高齢化したこともあり、馴染みの関係は少なくなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その人らしさを大切に、互いの個性を生かしながら交流できるよう席など配慮し、必要に応じて仲介に入るなど支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了したケースにおいてもつながりを大切にし、必要に応じて連絡を取り合いながら、いつでも相談出来る環境作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中にニーズがないかを確認し、困難な場合はスタッフ間で話し合い、ご本人にとって一番大切なことや困っている事は何か話し合っている。	大方の利用者は常に話し合いができるので、希望や意向を聞きとることができる。困難な場合にも寄り添って生活する中で、態度や表情で意向を把握し、支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにて得た基本情報や本人・家族様からの話を伺いながら過ごしてこられた環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中から、変化や様子を把握し気付いた点はスタッフ間での申し送りを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のケアカンファにて支援内容の見直しと、職員一人ひとりが日常の様子で思ったこと、気付いたことを話し合っている。	利用者の状況と利用者や家族の要望を基本とし、毎月モニタリングを行い、関係者の意見を反映し、状況に応じた新しい介護計画を作成する。状況に変化がなくても3か月ごとに見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録への記入と、日々の申し送りにて職員間の情報を共有している。継続して必要な実践についてはケアプランの見直しの際に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	重度化や医療ニーズの高まりとともに日々の変化に対する柔軟な対応が必須となっており、連携機関からのアイデアなどを取り入れたりし対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物などに出かけたり、近くの公園での花見など定期的の実施している。買い物などでは自分で選んでいただくこともある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には往診医にて対応していたが、専門医への受診が必要となった場合は本人、家族さまの意向をうかがいながら、適切な医療機関への受診につなげている。	入居時の家族等の希望に沿って、従来からのかかりつけ医、或いは事業所の提携医療機関から月2～3回往診を受けている。いずれの場合も、日頃より主治医との連携を図るよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制で必要に応じて看護師よりアドバイスを受ける体制ができており、緊急を要するケースにおいてもスムーズに受診できるよう協力していたが、一部の利用者様は、緊急時の受け入れ病院が定まりつつある利用者様もいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーの活用と、面会や電話連絡などにおいて状態の確認を行い、早期退院に向けた支援を行っている。緊急時の際の受け入れ病院が定まりつつある利用者様もいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要時においては主治医の指示を受け、担当者・家族様を交えたケアの方向性についての話し合いを行い、皆が納得した終末期を迎えることができるよう意思の統一を図っている。	重度化した場合、医師と連携をとりながら看取り迄ケアする用意があることを家族に伝えているが、現状は医療連携はとれていない。終末期対応指針等は全社的には整備されているが、当事業所での適応は十分ではない。	入居時に、将来重度化した場合を想定して、事業所でできることを明確に示し、家族と話し合い、覚書を交わしておくこと、時々、それを確認し合っ関係者が共有しておくことが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修等において、緊急時における対応の統一を図り、有事の際の実践につなげていけるよう準備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民との連携強化に向けて検討を行っている。避難訓練等において有事に備えた対策を講じている。	災害対策マニュアルはあり、スプリンクラー、避難経路等、整備されている。非常時用品も備蓄され、年2回避難訓練を実施し、職員、利用者も理解している。災害時に地元高校生等の救援が期待できる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	なじみの関係となれなれしい関係の区別を心がけ、利用者一人ひとりの気持ちを尊重できるよう対応を行っている。	利用者はお客様であり、家族であるとの基本理念をもって、誇りやプライバシーを損ねないよう接遇している。羞恥心にも配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レク材料など好きなものを選んでいただく場面を作り、好みを優先できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の動きに流されてしまうケースも見受けられるが、極力本人のペースを大切に、思いをくみ取る努力を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や行事などの際は、いつもと違った装いで参加していただくことや、定期的な訪問理容にてその人らしさを大切にできるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	外食援助の実施。また、普段の調理の際は個々の残存機能に応じてできる部分はお願している。	栄養バランスを考慮したメニューに従い、食材を仕入れ、調理はすべて事業所で行っている。利用者も、それぞれ出来ることで食事作りをしている。職員も一緒に楽しい食事をしている。時々外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録による日々の摂取量の把握と、咀嚼嚥下状態に応じた食事形態での提供を行っている。水分に関しては種類を変えて提供するなど、提供方法の工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科往診による定期的なケアと毎食後の口腔ケアにより口腔内の衛生に努めている。また、夕食後は義歯を預かり管理の徹底を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄介助の目的を明確にし、個々のパターンの把握と目標に添った支援を心がけている。	チェック表で把握したり、もよおした場合のしぐさで察知して、トイレに誘導することで排泄の自立を支援している。リハビリパンツの使用を止め、布パンツに変わった例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便パターンの確認。自然排便を促すことができるよう飲み物や飲むタイミングの工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	季節風呂や香り風呂なども企画し楽しめる空間作りを心がけている。入浴時間帯は決めているが、希望や必要性に応じて臨機応変に対応している。	浴室に浴槽が2つあり、一人ずつ交互にお湯を張り替えて使用している。1日おきに夕方の入浴を原則としているが、柔軟に対応している。重度化して入浴困難な利用者には併設のデイサービスの機械浴で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の入眠パターンに沿った臥床の声かけや介助を行っている。日中は体調を確認し、必要に応じて臥床していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報の確認や内服変更があった際は申し送りを行っている。また、変更時における体調確認や、チェック体制の強化、服薬時の読み上げなど誤薬に対する予防策を講じている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族様や本人など情報収集を行い支援に生かしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩へ行き気分転換を図っている。地域の方に気軽に声を掛けていただくこともある。	天気の良い日には、近くの公園や氏神さんに散歩に行く。月に一回位食事会や花見、紅葉狩り、夜景見物など、遠いところは車で出かける。家族さんの協力もあり外出を日課としている利用者もあり、近隣の人々との交流もでき、気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所にて管理を行っている(紛失の可能性があるため)買い物などへはスタッフが同行し援助を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を自らされる方はいらっしゃらないが、かかってきた際は本人にお繋ぎし、話をさせていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁画や飾り、カレンダーなど、季節感が出せるよう工夫している。食事の際はBGMをかけ、落ち着いた環境で食事ができるよう配慮している。	リビング兼食堂は広く明るい。花が飾られ、壁に大きなカレンダーが張られ、手芸品を吊るすなど季節感を演出している。また事業所の行事の写真などが貼られ生活感がある。テレビの前にソファが置かれ寛ぎの場所になっている。トイレ、浴室等は清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでの座席への配慮や利用者同士の仲介など必要に応じて工夫を取り入れ支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様の協力もあり、なじみの家具を利用されている方や写真などを飾り、居心地の良い環境、空間作りをされている利用者様もいる。	利用者の使い慣れた家具等を持ち込み、写真、仏壇なども置かれ、住み慣れた家庭生活の継続性が感じられる。それぞれに居心地良く過ごせるよう設えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室入口に表札の設置、トイレなどにおける目印など、見てわかるよう配慮している。		